

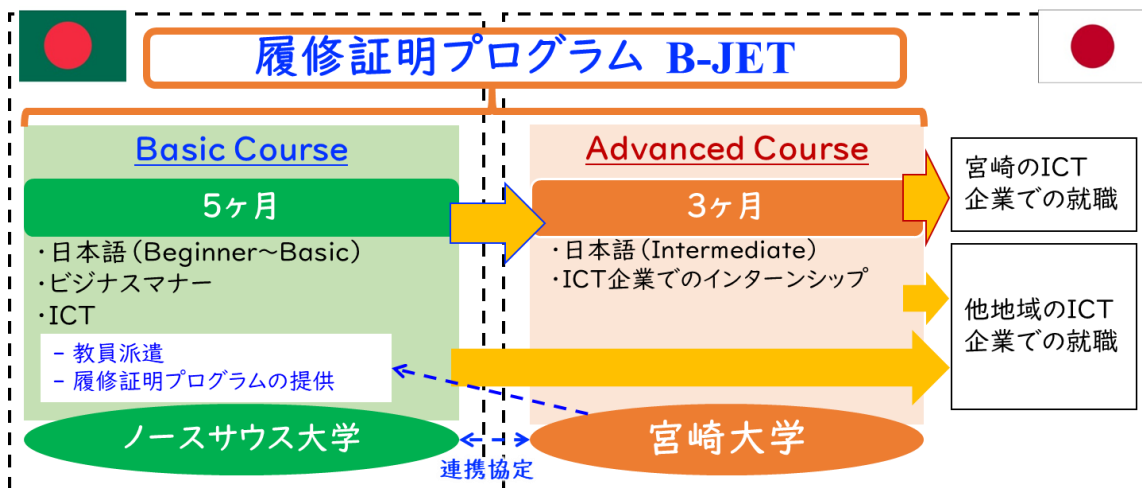


特色ある取組

「宮崎－バングラデシュ・モデル」における日本市場向けICT人材への現地教育プログラムであるJICAのB-JET事業を、バングラデシュのノースサウス大学と宮崎大学が企業の寄附・業務支援を受けて連携事業体として承継し、上記モデルにおける宮崎大学への留学・就職を行うJIPと融合させた連続性・接続性の高い一貫教育・人材育成を行う。プログラムは、「バングラデシュと宮崎の社会課題や可能性に挑戦する人や組織を創る」ことをミッションとして掲げている。2021年4月に設置の株式会社新興出版社啓林館の寄附講座「外国人ICT技術者人材育成学講座」がプログラムの実施を担う。また、「宮崎－バングラデシュ・モデル」はB-JETがJICAの技術協力事業であったが、本事業では、海外大学との教育連携と寄附講座を基盤に、新たに大学のリカレント教育である履修証明プログラムとして構築する。

2021年10月に、新型コロナウイルス感染症の影響からBasic Courseはオンラインで開講した。一方、既往B-JETは首都ダッカ在住者のみの参加であったが、オンライン化により地方の若者が参加可能となり、バングラデシュにおける教育・就業の機会拡大に繋がっている。

取組の様子



期待できる成果・評価 など

先行事業「宮崎－バングラデシュ・モデル」では、バングラデシュの若手ICT人材の日本市場での就職出口の確保と、地方への高度ICT人材の導入について一定のモデルを示した。就業後、外国人高度ICT技術者は地域で活躍し、ICT技術での貢献だけでなく、母国との産業交流等の促進による企業の活性化と国際化をもたらしている。

本事業では、人材の教育・就業支援を通じて、よりWin-Winな地域の国際化、多文化共生となる地域社会の在り方「宮崎－バングラデシュ・スタイル」を見出し、形にしていける。

参考URL

外国人ICT技術者人材育成プログラム(B-JET): <https://bjed-home.studio.site/>